

# 薬だっ知識

私は県外の大学の薬学部を卒業し、薬剤師となりました。その後鹿児島へ戻り、15年間同じ薬局で働いています。薬剤師は患者さんの命に直接かかわる仕事で、日々、患者さんを第一に考えながら仕事をしています。私を信頼し、通院が難しくなったなじみの患者さんから自宅を訪れてほしいと頼まれたときなどは、大変ありがたく、薬剤師になつてよかったと思います。

薬剤師になるには、大学の薬学部または学科の6年制課程を卒業し、国家試験に合格しなければなりません。大学では臨床に強い薬剤師を目指し、薬学の幅広い領域について学びます。また、5年生になると病院・薬局へ11週間ずつの参加型薬学実務実習があり、患者さんや他の医療職と接して医療者としての自覚が湧いてきます。自宅に近い施設で実習を受けることが多

## 25. 薬剤師の仕事

## さまざまな方面で活躍



薬剤師の活躍の場は病院、薬局にとどまらない

いので、生まれ育った地域の特徴を知ることが出来ます。薬剤師になると毒物劇物取扱責任者などの資格が得られます。また、労働衛生コンサルタントなど資格取得に考慮・免除がある資格もあります。ただ、6年間で学しなければならないため学費は他の学部と比べて高くなります。県内の大学には薬学部がないので県外に進学することになり、生活費もかかります。薬剤師法1条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする」とあり、薬剤師はこれを実現するために、処方箋に基づき処方監査・投薬（調剤）、市販薬の購入相談業務を通じた地域住民への医薬品供給、学校薬剤師として環境衛生における維持管理などの助言および指導や、地域での薬物乱用防止啓発活動（薬事衛生）、災害時の医療支援などにも携わっています。ほかにも行政で麻薬取締官として働いたり、製薬会社での医薬品の研究開発に関わったりするなど、活躍の場は薬局、病院にとどまりません。幅広い分野で働ける「薬のプロ」を目指してみませんか。（鹿児島県薬剤師会常務理事・川畑信浩）

「令和元年11月12日（火）掲載（25. 薬剤師の仕事）」